

戦略的創造研究推進事業
ERATO
テーマ候補・研究総括候補
募集要項

本募集は、ERATOの研究領域（研究プロジェクト）および研究総括に関する選考の前段階である、研究動向調査や研究者調査の一環として、皆様から広く情報を提供いただくという趣旨のもと実施するものです（研究助成のための提案募集ではありません）。

本募集で提供いただいた情報は、別途JST独自で実施の調査に随時反映させていただき、ERATOとして相応しい研究総括候補者（およびテーマ候補）の絞り込みや検討を進めた上で、その後改めて当該候補者を対象とした選考を、提案される研究構想にもとづいて行います。

募集期間：通年

（ただし、2021年度（令和3年度）選考に向けたご応募の締め切りは
2020年（令和2年）9月30日（水）正午）



国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

研究プロジェクト推進部

2020年（令和2年）6月

目次

はじめに	1
序章 戦略的創造研究推進事業の目的と概要	4
第 1 章 ERATO	6
1.1 ERATO の目的と概要	6
1.2 ERATO の仕組み	6
1.3 事業推進の流れ	9
第 2 章 募集様式・記入要領	10
2.1 募集期間	10
2.2 応募者の要件	10
2.3 募集様式・記入要領・提出先	10
2.4 提供いただいた情報の取扱等について	10
2.5 募集結果の通知	11
様式 ERATO テーマ候補および研究総括候補 記入フォーム	12
第 3 章 【ご参考】研究構想提案・選考に関する事項	14
3.1 研究構想の提案・選考に関する事項	14
3.1.1 選考方法	14
3.1.2 選考の観点	15

はじめに

はじめに

1. 本募集の趣旨

本募集は、ERATOの研究領域（研究プロジェクト）および研究総括に関する選考の前段階である、研究動向調査や研究者調査の一環として、皆様から広く情報を提供いただくという趣旨のもと実施するものです（研究助成のための提案募集ではありません）。

本募集で提供いただいた情報は、別途 JST 独自で実施の調査に随時反映させていただき、ERATOとして相応しい研究総括候補者（およびテーマ候補）の絞り込みや検討を進めた上で、その後改めて当該候補者を対象とした選考を、提案される研究構想にもとづいて行います。

2. 私たちが ERATO での調査で重視していること

ERATO は、規模の大きな研究費をもとに既存の研究分野を超えた分野融合や新しいアプローチによって挑戦的な基礎研究を推進することで、今後の科学技術イノベーションの創出を先導する新しい科学技術の潮流の形成を促進し、戦略目標の達成に資することを目的としています。そのために、総責任者である研究総括は、独創的な構想に基づく研究領域（プロジェクト）を自らデザインし、3~4 程度の異なる分野・機能からなる研究グループを様々な専門性やバックグラウンドを持つ研究者の結集により構成し、研究プロジェクトを指揮する点に特徴があります。

このような目的を達成しつつ特徴を活かすべく、私どもは、極めて独創的かつ先見性のあるアイデアや研究哲学を持った「人」、そしてその人ならではの「テーマ」とは何かを常日頃から追求すべく、外部有識者であるパネルオフィサーの指導・助言のもと、有識者へのインタビューやアンケート、学会・研究会等への参加を通じた情報収集、各種エビデンスデータの収集・分析などをもとにした調査活動を行っております。今回その調査の一環として、「テーマ候補」「研究総括候補」双方に関する情報を提供いただきたいと考えております。

なぜこのような調査活動を私たちが重視しているのかについて、ここで説明させていただきます。

そもそも私たちが行う調査活動は、上述のように選考（研究構想提案の評価）の前段階と位置づけております。ある意味では研究構想提案を提案いただく方々を JST がトップダウンで指名するスタイルで

はじめに

あり、それは他の競争的資金で見られる、広く研究構想提案を公募するスタイル（ボトムアップ型）とは異なります。

これまで科学技術は人類の繁栄と生活の質の向上に大きな貢献をしてきました。そのなかでも日本は先進的な役割を担ってきましたが、近年、諸外国における研究開発の加速など日本の科学技術を取り巻く環境は大きく急速に変化しており、また、持続可能な人類社会の発展などに科学技術には依然として大きな期待が寄せられています。日本が新しいサイエンスを拓き、科学技術で世界を先導して人類の発展に貢献し続けるには「世界を一変させるような一点突破型の才能のある人材を発掘し、その人が科学技術上の大きなインパクトを生み出すことに賭ける」という考えに行き着きます。またこうした研究は、独創的なアイデアをもとに、その才能のある人材が世界トップレベルの研究を行える好機を捉え、且つ、その重要性や世界の動向等にも鑑みて最適なタイミングで進められるべきものでもあります。まさにこれらの考えこそが、ERATO が制度として重視している理念の一つです。

こうした背景から、私たちはERATO の理念に合う「人」ならびに「テーマ」の双方の面で、年間を通じて調査を実施しています。

○「テーマ候補」の情報から知りたいこと

- ・ ERATO の推進で、サイエンスとしての大きなインパクトが見込める成果とは何か
- ・ ERATO の推進を端緒として、将来実現することが期待される新たな社会的・経済的価値は何か
- ・ 上記2項の目的実現のアプローチとして、どのような分野融合が図られるのか

ここでは主として、当該テーマが、いかに独創性という点で際立っているか、世界を一変させうる価値を伴っているか、当該テーマを実施するに最適なタイミングであるかを把握したく考えております。その上で、その実現のためにどのような分野融合を図るのか等の効果的な手段についても把握したく考えております。

○「研究総括候補」の情報から知りたいこと

- ・ ERATO の推進を想定しうる独創性や優位性のあるアイデアや研究哲学を有しているか
- ・ 研究プロジェクトを指揮するに相応しい指導力、若手研究者を触発し得る人物であるか
- ・ 分野融合のアプローチを進める上で、どのような分野の異なる研究者と協力できるか

ここでは主として、当該候補者が、ユニークな研究哲学と具体的な作業仮説を兼ね備えた新しい科学技術の潮流の形成を先導するリーダーとしての能力を秘めているか、若手研究者を指導・育成するメンターとしての素養があるかを把握したく考えております。ただし、リーダー、メンターいずれの能力に

はじめに

についても、現時点で十分に備わっていることは必ずしも求めていません。将来的に ERATO のリーダーという機会を得ることで、自己研鑽しつつ世界のリーダーへと飛躍することを期待しています。

詳細は、12 ページの「様式 ERATO テーマ候補および研究総括候補 記入フォーム」をご覧ください。

3. 募集について

(1) 応募資格

皆様から広く情報を提供いただくという観点から、以下のようにさせていただいております。

- ・「自薦」「他薦」は不問
- ・大学・公的機関・民間企業等で研究開発に直接従事の実験のある方、マネジメント・支援業務経験のある方であれば応募可能
- ・応募件数は制限なし

詳細は、10 ページの「2.2 応募者の要件」「2.3 募集様式・記入要領・提出先」をご覧ください。

(2) 募集内容

「テーマ候補」および「研究総括候補」の両方について募集を行います。

詳細は、上記 2. や 12 ページの「様式 ERATO テーマ候補および研究総括候補 記入フォーム」をご覧ください。

本募集に関してご不明な点等がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

皆様からの貴重な情報を提供いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

序章 戦略的創造研究推進事業の目的と概要

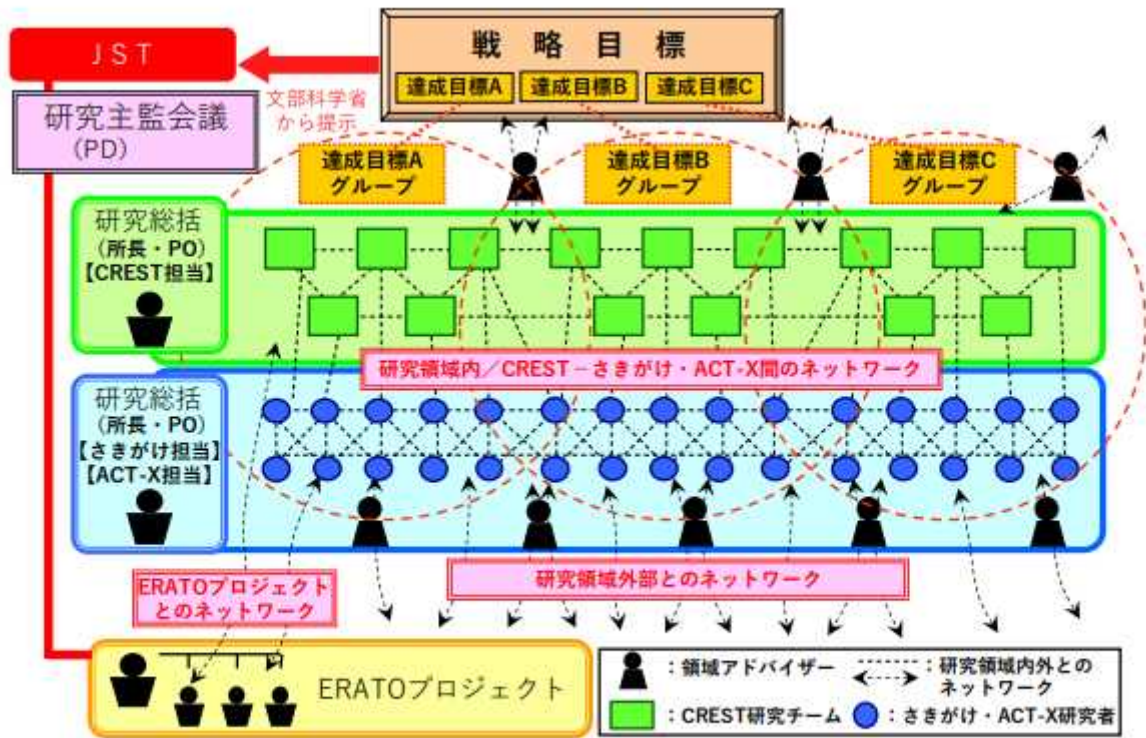
【目的】

本事業は、我が国が直面する重要な課題の克服に向けて、挑戦的な基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく創造的な革新的技術のシーズ（新技術シーズ）を創出することを目的としています。卓越した基礎科学からトップイノベーションの源を生み出す、挑戦的な研究に果敢に取り組む研究者の皆様からのご提案・ご参加をお待ちしています。

【概要】

国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズ等を踏まえて国(文部科学省)が設定する「戦略目標」の下に、推進すべき研究領域と研究領域の責任者である研究総括を JST が定めます。研究総括は、戦略目標の達成へ向けて、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術のシーズの創出を目指した戦略的な基礎研究を推進します。

本事業全体の運営方針や制度改革の検討・立案は、研究主監(プログラムディレクター)が行います。本事業には「ERATO」(研究総括が自らの研究構想の実現を目指して研究プロジェクトを指揮)とともに、「CREST」(研究総括の運営の下、研究代表者が率いる研究チームにより研究課題を推進)、「さきがけ」および「ACT-X」(研究総括の運営の下、個人研究者が研究課題を推進)があります。



戦略的創造研究推進事業『ネットワーク型研究所』の標準的モデル

➤ 戦略目標

- ・ 国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズ等を踏まえ、国(文部科学省)が「戦略目標」を設定
- ・ 戦略目標の実現のための「達成目標」を3つ程度提示

➤ 研究主監(プログラムディレクター)会議

- ・ ネットワーク型研究所の事業横断的な運営指針の提示・共有
- ・ 新規研究領域・研究総括の事前評価
- ・ 研究領域を超えた最適資源配分、連携推進・調整等を行う

※ 研究領域は、戦略目標に応じて、CREST、さきがけ、ACT-Xのいずれか(複数もしくは複合領域を含む)を設定

➤ 研究総括(プログラムオフィサー)

イノベーション創出・戦略目標達成に向け、

- ・ 研究領域の運営方針を策定・共有し、領域アドバイザーの協力を得ながら研究領域のマネジメント(研究課題の選考・評価を含む)
- ・ 科学技術イノベーションへの展開を見据えた、研究領域内外とのネットワーク形成の先導・支援等を行う

第 1 章 ERATO

1.1 ERATO の目的と概要

ERATO は、1981 年に発足した創造科学技術推進事業を前身とする歴史あるプログラムです。規模の大きな研究費をもとに既存の研究分野を超えた分野融合や新しいアプローチによって挑戦的な基礎研究を推進することで、今後の科学技術イノベーションの創出を先導する新しい科学技術の潮流の形成を促進し、戦略目標の達成に資することを目的としています。そのために、総責任者である研究総括は、独創的な構想に基づく研究領域（プロジェクト）を自らデザインし、3～4程度の異なる分野・機能からなる研究グループを様々な専門性やバックグラウンドを持つ研究者の結集により構成し、研究プロジェクトを指揮する点に特徴があります。

これまでに137プロジェクトが発足し（2020年（令和2年）6月現在）、ノーベル賞の受賞につながった研究など多くの優れた研究が行われるとともに、新たな社会的・経済的価値の創出にも貢献しています。このためERATO の仕組みは海外からも高く評価されています。

1.2 ERATO の仕組み

(1) 研究費

1 プロジェクトあたりの予算規模は、総額上限 12 億円（直接経費、通期；通常環境整備期間半年、プロジェクト実施期間 5 年の計 5 年半以内）です。また、JST は研究機関（研究総括の所属機関等）との契約形態により、研究費（直接経費）に別途経費を上乗せするかたちで、当該機関に支払います。

(2) 研究期間

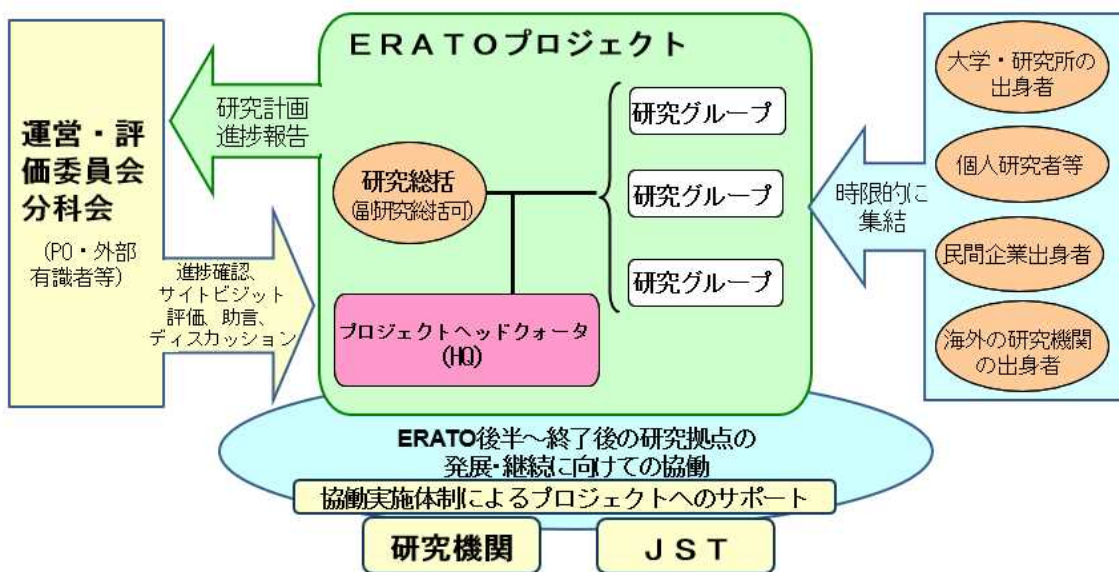
研究期間は、5 年半以内（第 6 年次の年度末まで実施可能）です。

(3) 研究体制

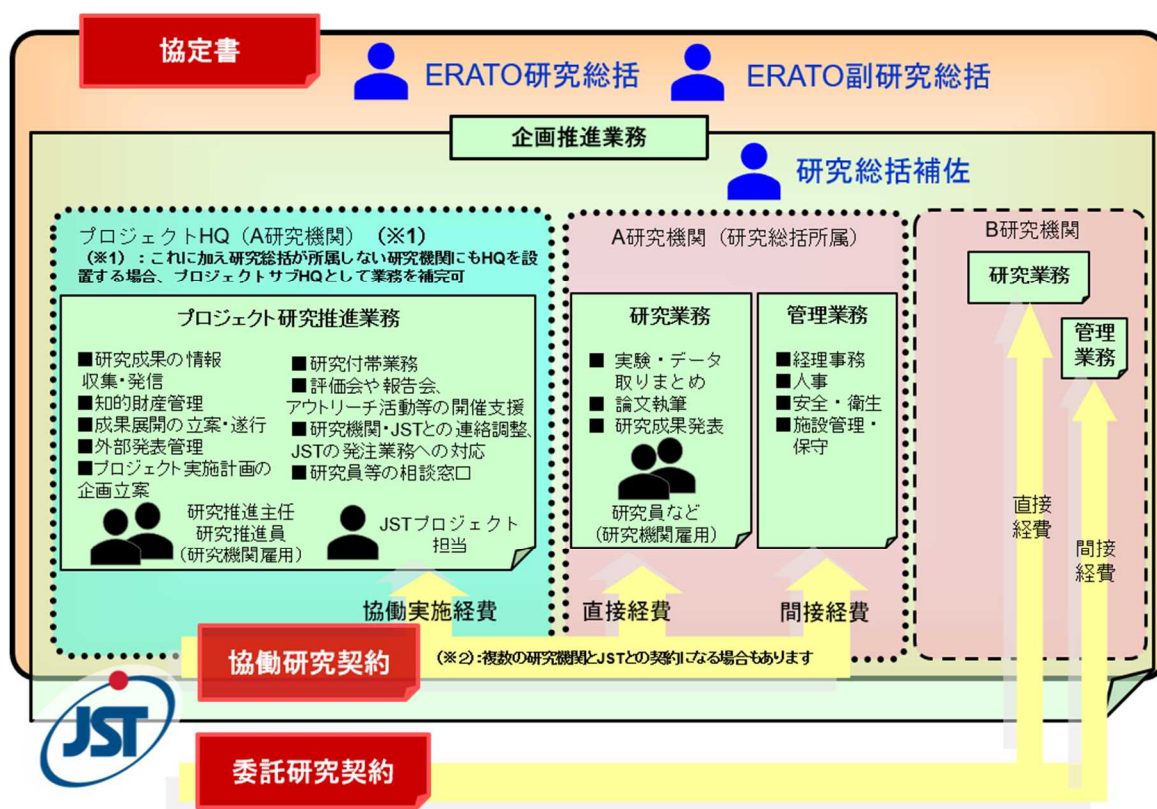
- a. 研究機関（研究総括の所属機関等）と JST が協働でプロジェクト運営に当たる「協働実施体制」とし、研究総括をリーダーとした時限的な研究組織を新たに編成し、「産」「学」「官」「海外」からプロジェクトに最適なメンバーを結集します。なお、研究総括を構想提案者とした構想提案については、任意で共同提案者（1 ないし 2 名程度）を置き、研究構想の共同での提案も可能です。当該共同提案が採択された場合、研究プロジェクト期間を通じて構想提案者は研究総括として、共同提案者は副研究総括として、互いに協働して研究プロジェクトの運営を担っていただきます。

第 1 章 ERATO

- b. 研究機関は、プロジェクトにおける研究業務（プロジェクト研究を実施する場所の提供や研究員等の雇用 等）、研究費の管理・監査業務、プロジェクト研究推進業務を JST と協力して担当します。
- c. 研究機関と JST は、互いに積極的なコミュニケーションを図り、プロジェクト研究推進業務に関する知識やノウハウを共有しながら、連携してプロジェクト全体を取りまとめます。
- d. 研究領域及び研究総括の選定を行った後、JST は、研究グループを設置する研究機関間で協定を締結します。協定では、研究機関と JST が互いに情報を共有し、協力してプロジェクトを実施すると共に、研究機関は可能な限りで内部規則や運用方針等の改定を含む柔軟な対応に努めて頂くことを約束して頂きます。
- e. その上で、各研究機関と JST は個別に研究契約を締結します。
- f. 協働実施体制下でのプロジェクト推進の一環として、プロジェクト発足直後から研究総括（および副研究総括）－研究機関－JST の三者は協働して、終了時のイメージを議論および共有して、プロジェクトの成果の展開や研究インフラの発展・承継等の可能性を検討および具体化するプランニングを行います。
- g. 研究プロジェクトの進捗把握や助言等を行うために、プロジェクトごとに、選考（採択）に関わったパネルオフィサーを中心とする、「運営・評価委員会分科会」を発足させます。当該分科会は、プロジェクトの進捗状況の把握や助言に加えて、中間・事後評価も行い、プロジェクトにおける研究成果の状況や運営の状況（上記プランニングも含む）がこれらの対象になります。
- h. 当該協定及び契約の締結ができない等の場合には、選定の取消を行うことがあります。



ERATO プロジェクトの構成



ERATO協働実施体制のフロー

(参考)

過去及び現在研究進行中のERATOプロジェクトについてさらに詳しくお知りになりたい方は、下記ウェブサイトをご参照ください。

【URL】 https://www.jst.go.jp/erato/research_area

1.3 事業推進の流れ

(1) 研究領域および研究総括の選考

JST は、ERATO の目的や特徴に合致し、なおかつ国が定める戦略目標の達成に向けて貢献が期待される研究領域および研究総括について、パネルオフィサーやパネルメンバー等の協力を得て選考を行います。

(2) 研究計画の作成

採択後、研究総括は研究期間全体を通じた全体研究計画書を作成します。また、年度ごとに年次研究計画書を作成します。研究計画には、研究費や研究グループ構成が含まれます。

(3) 契約

採択後、JST は研究総括及び他機関所属で予算を配分する研究者の所属する研究機関との間で、原則として研究契約を締結します。

(4) 研究実施

5 年半以内の期間で、研究を実施していただきます(第 6 年次の年度末まで実施可能です)。

(5) 評価

外部有識者による研究領域の評価を、JST が別途定める時期に行います。

第 2 章 募集様式・記入要領

2.1 募集期間

メールによる募集は年間を通じて随時受け付けております。

ただし、2021 年度（令和 3 年度）選考に向けては、2020 年（令和 2 年）9 月 30 日（水）正午までに応募いただいたテーマ候補・研究総括候補をもって、一旦締め切らせていただきます。

2.2 応募者の要件

個人。ただし、大学・公的研究機関・民間企業の研究開発部門等で研究開発経験のある方。

なお、研究開発経験のない方であっても、研究開発マネジメント・支援業務経験のある方（URA等）は対象となります。推薦者の要件に関しご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

※ 研究総括候補の「自薦」「他薦」は問いません。

2.3 募集様式・記入要領・提出先

テーマ候補・研究総括候補の募集にあたり、所定の応募様式を下記ウェブサイトよりダウンロードしてください。記入要領については、12ページ「様式 ERATOテーマ候補及び研究総括候補 記入フォーム」を参照してください。

※ 応募者 1 人あたりの応募件数に上限はありません。

【URL】 <https://www.jst.go.jp/erato/application>

【提出先メールアドレス】 [erato-suisen\[at\]jst.go.jp](mailto:erato-suisen@jst.go.jp) ※[at]を@に置き換えてください。

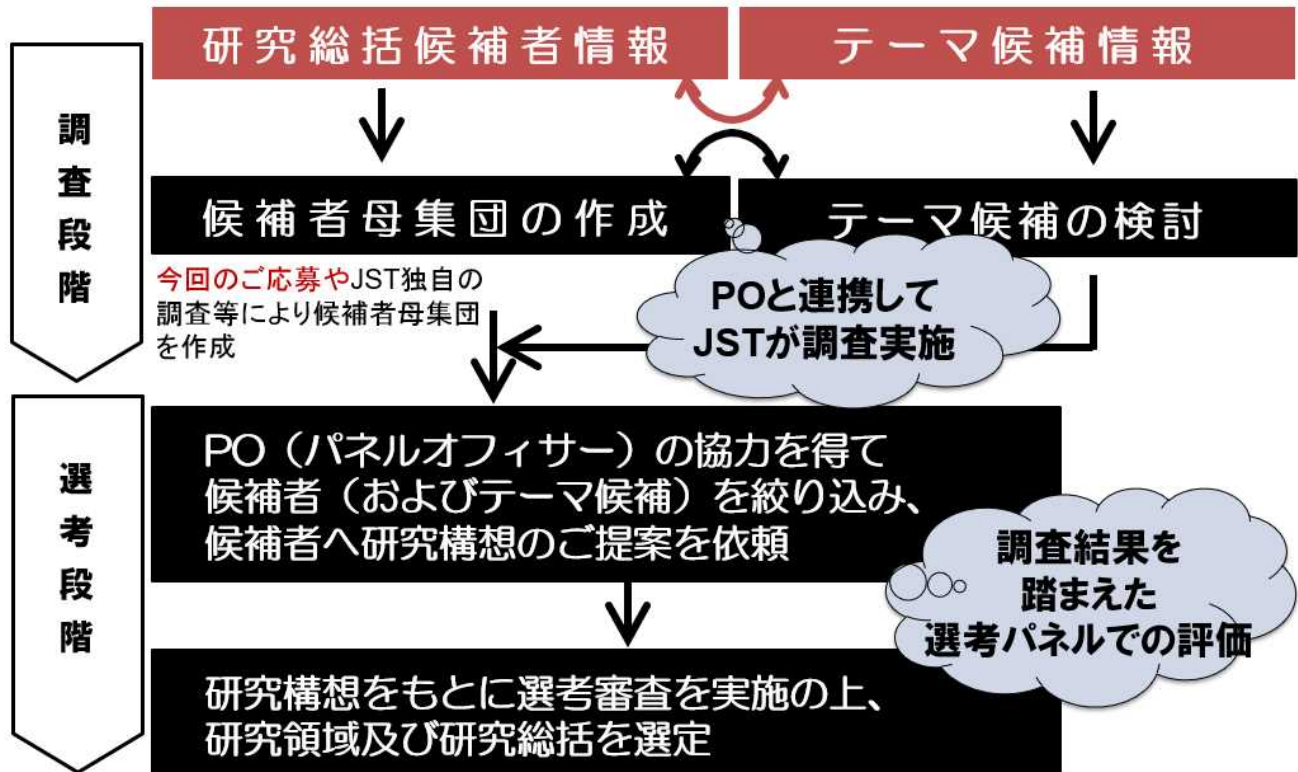
2.4 提供いただいた情報の取扱等について

応募に関連して提供いただいた個人情報については、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）及び関係法令を遵守し、ERATOの推進に関すること（テーマ候補・研究総括候補の調査、研究領域・研究総括の選考等）の目的にのみ利用します。（ただし、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

また、今回ご応募いただきましたもののうち、「研究総括候補」については、これまでと同様、JST独自の調査による研究総括候補とあわせ、その母集団とし、有効期限は「受領した年度を含めた3年度」とします。一方、「テーマ候補」については、パネルオフィサー（PO）等の協力を得て実施するJST独自の調査および研究総括候補の絞り込みを進めていく中で、随時検討の材料とさせていただきます（この場合、応募者の方へ質問させていただくこと等があります）。また「テーマ候補」の一部の情報については、個人が特定されないかたちで、JST事業運営に資する研究動向の統計や分析に活用させていただくことがあります。

提供いただいた全ての情報は、ERATOを所掌するJST研究プロジェクト推進部内で適切に管理し、記載者の同意なくJST外の第三者に提供することは一切ありません。ただし、上記した研究総括候補の絞り込みを進めていく（テーマ候補の調査および検討を進めていく）中で、JST 外の有識者※に、記載内容を開示させていただくことがあります。

※「JST 外の有識者」とは、JST が調査および検討の一環で実施するヒアリングやワークショップの対象者、参加者等です。これらの有識者は、当該調査への協力で得た情報について守秘義務を負います。



2.5 募集結果の通知

今回の募集は「テーマ候補検討」および「研究総括候補者の母集団形成」を目的としたものですが、記載いただいた内容等について改めて照会させていただく場合があります。なお、研究総括候補者の絞り込みやテーマの検討にあたって、その途中経過や結果の通知はいたしかねますので、予めご了承ください。

なお、絞り込みを経て研究構想を提出いただく方に対しては、当機構より候補者ご本人に直接連絡いたします。

選考経過及び選考結果については、選考結果の報道発表にてかえさせていただきます。

様式 ERATO テーマ候補および研究総括候補 記入フォーム

※本フォームは、A4 版で 4 ページを上回らない分量でご作成ください。

※ご記入が難しい項目については、空欄のままでも結構です。

※複数のテーマ候補をご記入の場合は、テーマ候補ごとに本フォームをご作成ください。

1. 本フォームを記入された方に関する情報

a. 記入フォーム作成日	(西暦) ○○○○年○○月○○日
b. 氏名 (ふりがな・ローマ字)	
c. 所属・役職	
d. メールアドレス	

2. ERATO で推進するに相応しいテーマ (ERATO テーマ候補) に関する情報

a. 推進テーマ候補の表題・キーワード	
b. 当該 ERATO テーマ候補に関連する背景	<p>※科学技術上の要請、社会・経済・産業上の要請、国内外の研究動向、現在の課題 (ボトルネック) などについてご記入ください。</p> <p>※本項目の記載内容について、個人が特定されない形で、JST の事業運営に資する研究動向の統計や分析に利用します。</p>
c. 上記背景を踏まえて、当該 ERATO テーマ候補で取り組むべき研究内容	<p>※どのような研究手法を用いて取り組むかについてもご存じでしたら、是非ともご教示ください。</p>
d. 当該 ERATO テーマ候補の推進で、どのような新しい科学技術の流れが生まれるか	<p>※上記 2. c. に取り組むことで、ERATO 終了時の 5 年後程度を目途に、どのようなサイエンスとしての大きなインパクトが見込める成果であるかについてご記入ください。</p>
e. 当該 ERATO テーマ候補の推進で、どのような新たな社会的・経済的価値の創出が期待できるか	<p>※上記 2. c. に取り組むことを端緒として、将来実現することが期待される新たな社会的・経済的価値は何なのか、現時点で想定しうる範囲内でご記入ください。</p>
f. 当該 ERATO テーマ候補の推進で、どのような分野融合の可能性が考えられるか	

3. 推進テーマ候補に関連する研究者（ERATO 研究総括候補）に関する情報
 （複数名挙げられる場合は、欄を増やしてください。）

a. 氏名（ふりがな）	
b. 所属・役職	
c. 研究キーワード	
d. 当該研究者が ERATO 研究総括候補として相応しい理由	<p>※研究プロジェクトを指揮するのに相応しい指導力、若手研究者を触発し得る人物であると考え理由についてご記入ください。</p> <p>※上記 2. c. に取り組む上で、当該研究者（研究グループ）が有する独創性や優位性についてご存じでしたら、ご記入ください。</p>
e. 当該研究者が当該 ERATO テーマ候補を共同で推進することが望ましい研究者について	<p>※特に上記 2. f. に関連して、分野融合の可能性の観点から、共同で推進することが望ましい研究者の方をご存じでしたら、望ましい理由と共にご記入ください。（人数に制限はありません）。</p> <p>※氏名（ふりがな）、所属・役職、研究キーワードの順でご記入ください。</p>

4. その他

上記 ERATO テーマ候補や ERATO 研究総括候補について、よくご存じの方について
<p>※氏名（ふりがな）、所属・役職、メールアドレスの順でご記入ください。</p> <p>※国内の方に加え、海外の研究機関等に所属の方もご存じでしたら、是非ともご教示ください。</p>

ご記入ありがとうございました。

第 3 章 【ご参考】 研究構想提案・選考に関する事項

本章は、本募集を経て実施する研究領域および研究総括の選考に関することを記載したものです。応募いただくにあたって参考となる情報（例えば「3.1.2 選考の観点」など）も含まれておりますので、ご一読ください。

直近の選考の詳細は、下記ウェブサイトより「研究構想提案要項」をご覧ください。

<https://www.jst.go.jp/erato/application/youkou.pdf>

3.1 研究構想の提案・選考に関する事項

3.1.1 選考方法

(1) 選考の流れ

パネルオフィサーがパネルメンバーの協力を得て、書類選考および面接選考により選考を行います。また、外部評価者の協力を得ることもあります。

また、選考において必要に応じて上記以外の調査等を行うことがあります。なお、研究提案者等（ここでは、構想提案者もしくは共同提案者のことを指すものとします）が営利機関等に所属する場合は決算書の提出を求める場合があります。

以上の選考に基づき、JST は研究領域および研究総括を選定します。

(参考)

・ERATO 事前評価に携わるパネルオフィサー（2020 年（令和 2 年）6 月現在、五十音順・敬称略）

	氏名	所属
1	今井 浩	東京大学大学院情報理工学系研究科 教授
2	知京 豊裕	国立研究開発法人物質材料研究機構 統合型材料開発・情報基盤部門 (MaDIS) 参事役
3	中野 義昭	東京大学大学院工学系研究科 教授
4	深見 希代子	東京薬科大学 学長補佐 東京薬科大学生命科学部 教授
5	福田 裕穂	東京大学 理事・副学長 ／未来ビジョン研究センター 特任教授
6	美濃 導彦	理化学研究所 理事
7	八島 栄次	名古屋大学大学院工学研究科 教授
8	米田 悦啓	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長

(2) 選考に関わる者

公正で透明な評価を行う観点から、JST の規定に基づき、研究提案者等（ここでは、構想提案者もしくは共同提案者のことを指すものとします）に関して、下記に示す利害関係者は選考に加わらないようにしています。

- a. 研究提案者等と親族関係にある者。
- b. 研究提案者等と大学、国立研究開発法人等の研究機関において同一の学科、研究室等又は同一の企業に所属している者。
- c. 研究提案者等と緊密な共同研究を行う者。（例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆、同一目的の研究メンバー、あるいは研究提案者等の研究課題の中での研究分担者など、研究提案者等と実質的に同じ研究グループに属していると考えられる者）
- d. 研究提案者等と密接な師弟関係あるいは直接的な雇用関係にある者。
- e. 研究提案者等の研究課題と直接的な競争関係にある者。
- f. その他 JST が利害関係者と判断した者。

3.1.2 選考の観点

(1) 選考基準(事前評価基準)

選考基準は、以下の通りです。（下記の全ての項目を満たしていることが必要です。）

■ 研究領域に係る構想

○革新的な科学技術の芽或いは将来の新しい流れを生み出す可能性のあるものであること

- ・サイエンスに対する大きなインパクトが見込める具体的な成果の創出が可能な研究構想であるか
- ・新たな科学技術分野を開拓することや、新たな社会的・経済的価値をもたらすことが期待できる研究構想であるか
- ・上記 2 項を実現するアプローチとして、既存の研究分野を超えた分野融合等が図られる挑戦的な研究構想であるか（既存の研究の単なる延長や大規模化ではない研究構想であるか；より挑戦的な研究構想をデザインし、それを実行するために、必要に応じた共同提案者との提案や複数分野を統合するチーム構成等による構想の強化もしくは拡張がなされているか）

○戦略目標から見て適当なものであること

- ・戦略目標の達成に向けて、貢献が期待されるものとなっているか

○適切な研究実施体制、実施規模であること

- ・研究総括のもとに専門分野や所属の異なる優秀な研究者を内外から結集し融合させ、個々人の才能を引き出すという、ERATO の特徴を生かした研究構想であるか
- ・新たな分野を開拓する研究構想を実現するため、具体的な方法論が盛り込まれているか。また、それは適切なものであるか

第 3 章 【ご参考】 研究構想提案・選考に関する事項

- ・前項のような方法論を進めるにあたって、必要に応じて共同提案者の設置も考慮しつつ、実行力あるチーム構成がなされているか。また、それは適切なものであるか

■ 研究総括

○ 研究プロジェクトの指揮を委ねるに相応しい優れた研究者であること

- ・新しい科学技術の潮流を形成する分野の開拓に挑戦するマインドと実行力を兼ね備えた人物であるか
- ・ERATO の機会を経ることで、世界トップクラスの研究者へとジャンプアップするポテンシャルを有する、または、すでに世界トップクラスの研究者でも、さらにジャンプアップして開拓した分野のリーダーとなる人物であるか
- ・その人ならではの先見性ある哲学や技術を有しつつも、それを手がかりに、さらに新たな分野の要素を取り込んで、世の中にインパクトのある成果をもたらし、かつそれにより新たな社会的・経済的価値をもたらすための実行力を期待できるか

○ 指導力及び洞察力を備え、若い研究者を触発し得る研究者であること

- ・研究構想実現に向け、既存の研究分野を超えた分野融合を図る上で、異分野の研究者を取り込み、存分に活躍してもらえようなリーダーシップと幅の広さを持っているか
- ・情熱をもって若手研究者を育成し、その本領を遺憾なく発揮させているか

※国際共同研究を含む場合は、上記に追加して以下の観点でも審査する。

(研究領域に係る構想)

○ 共同研究相手機関と研究能力を結集することにより、革新的な科学技術の芽の創出や国際研究交流に資することが期待できるものであること

(研究総括)

○ 相手機関と共同して円滑に研究を推進できること

JSTはダイバーシティを推進しています！

科学技術イノベーションをもたらす土壌には「ダイバーシティ（多様性）」が必要です。年齢、性別、国籍を問わず、多様な専門性、価値観等を有する人材が参画し、アイデアを出し合い、共創、共働してこそ新しい世界を拓くことができます。JSTは、あらゆる科学技術においてダイバーシティを推進することにより未来社会の課題に取り組み、我が国の競争力強化と心の豊かさの向上に貢献していきます。国連の持続可能な開発目標（SDGs）においてもジェンダー平等をはじめダイバーシティとも深く関わりのある目標が掲げられており、国内のみならず世界共通の課題解決にも貢献していきます。

現在、女性の活躍が「日本最大の潜在力」として成長戦略の中核に位置づけられています。研究開発においても、女性の参画拡大が重要であり、科学技術イノベーションを支える多様な人材として女性研究者が不可欠です。JSTは女性研究者の積極的な応募に期待しています。JSTでは、従来より実施している「出産・子育て・介護支援制度」について、利用者である研究者の声に耳を傾け、研究復帰可能な環境づくりを図る等、制度の改善にも不断に取り組んでいます。

新規課題の募集と審査に際しては、多様性の観点も含めて検討します。

研究者の皆様、積極的なご応募をいただければ幸いです。

国立研究開発法人科学技術振興機構

理事長 濱口 道成

みなさまからの応募をお待ちしております

多様性は、自分と異なる考えの人を理解し、相手と自分の考えを融合させて、新たな価値を作り出すためにあるという考えのもと、JSTはダイバーシティを推進しています。これは国内の課題を解決するだけでなく、世界共通の課題を解決していくことにつながり、海外の機関と協力しながらダイバーシティ推進を通してSDGs等地球規模の社会課題に取り組んでいきます。

JSTのダイバーシティは、女性はもちろんのこと、若手研究者と外国人研究者も対象にしています。一人ひとりが能力を十分に発揮して活躍できるよう、研究者の出産、子育てや介護について支援を継続し、また委員会等についてもバランスのとれた人員構成となるよう努めています。幅広い人たちが互いに切磋琢磨する環境を目指して、特にこれまで応募が少なかった女性研究者の方々の応募を歓迎し、新しい価値の創造に取り組みます。

女性研究者を中心に、みなさまからの積極的な応募をお待ちしております。

国立研究開発法人科学技術振興機構

副理事 人財部ダイバーシティ推進室長 渡辺 美代子

公正な研究活動を目指して

近年の相次ぐ研究不正行為や不誠実な研究活動は、科学と社会の信頼関係を揺るがし、科学技術の健全な発展を阻害するといった憂慮すべき事態を生み出しています。研究不正の防止のために、科学コミュニティの自律的な自浄作用が機能することが求められています。研究者一人ひとりからは自らを厳しく律し、崇高な倫理観のもとに新たな知の創造や社会に有用な発明に取り組み、社会の期待にこたえていく必要があります。

科学技術振興機構（JST）は、研究資金の配分機関として、研究不正を深刻に重く受け止め、関連機関とも協力して、社会の信頼回復のために不正防止対策について全力で取り組みます。

1. JSTは研究活動の公正性が、科学技術立国を目指すわが国にとって極めて重要であると考えます。
2. JSTは誠実で責任ある研究活動を支援します。
3. JSTは研究不正に厳正に対処します。
4. JSTは関係機関と連携し、不正防止に向けて研究倫理教育の推進や研究資金配分制度の改革などに取り組みます。

私たちは、夢と希望に満ちた明るい未来社会を実現するために、社会の信頼のもとで健全な科学文化を育まねばなりません。引き続き、研究コミュニティや関連機関のご理解とご協力をお願いします。

国立研究開発法人科学技術振興機構
理事長 濱口 道成

【問い合わせ先】

お問い合わせはかならず電子メールでお願いします(お急ぎの場合を除きます)。

国立研究開発法人科学技術振興機構

研究プロジェクト推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

E-mail : erato-suisen[at]jst.go.jp ※[at]を@に置き換えてください。

電 話 : 03-3512-3528(受付時間 : 10:00~17:00※)

※土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始を除く

[電話でご質問いただいた場合でも、電子メールでの対応をお願いすることがあります]